

研究課題(テーマ)	本学学生に向けた読書啓発活動の推進		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	図書館運営委員会	委員長	川上 智規
研究結果の概要			
<p>読書啓発活動の推進のため、以下の活動を実施した。</p> <p style="text-align: center;">読書啓発コーナーの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き学生選書企画を実施した。その結果、昨年、一昨年度と同様に、学生選書企画への応募が多数あった(「スマホで選書」参加者：のべ12名、選書数：51冊)。 ・司書職員の選定による図書補充も行った。 <p style="text-align: center;">ベストリーダー賞の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合部門(分野を問わず貸出数が最多の学生)及び読書のすすめ部門(読書のすすめコーナーからの貸出数最多の学生)の2部門制に広げた優秀読者の表彰(ベストリーダー賞)を行った。 <p style="text-align: center;">電子書籍の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TPU電子図書館やMaruzen eBook Libraryで利用できる電子書籍の充実を図った。就職関連書籍などTPU電子図書館では54冊、eBook Libraryでは3冊を導入した。 <p>それらの活動の結果は以下の通りであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベストリーダー賞に関しては、R5年度の総合部門の第1位は初めて看護学部の学生だった。そのことが看護学部の気運を高めており、今後も全学的な読書啓発活動の推進が期待される。 ・昨年度に比較して、図書館入館者数は約10%減少、書籍の貸し出し数は約37冊(1%)の減少であった。能登半島地震の影響で一部利用制限があったことを考慮すると十分な結果といえる。 ・電子書籍に関しては、eBook Libraryのアクセス数は昨年より12%の減少だったのに対し、TPU電子図書館での貸出数は昨年より50%増加した。コンテンツを充実させた方に伸びがあることが示された。 			
今後の展開			
<p>能登半島地震の影響により図書館利用を一部制限してきたが、早期復旧を図り制限を撤廃する。eBook Libraryのコンテンツの充実が読書習慣の向上への取り組みとして効果があることが示されたため、学外からも利用できる電子書籍の充実も含め読書啓発活動を継続する。</p>			